

子どもと出会い直し、共に考え合える教師を目指して

研究委員会会長 寺島寿一



今年度より中心講師を、八年間にわたりご指導いただいた伏木久始先生から信州大学教育学部教授の畔上一康先生にお願いしました。

研究テーマは、これまでの「子どもと共に、創る授業」にサブテーマとして「子どもの学び 教師の学び」を加えまし

心に火をつける同好会

同好会会長 片桐茂和



上高井教育会の中で、教科等研究委員会とともに大きな柱となっているのが、同好会です。

教師の一日の仕事の中で、最も長い時間を占めているのは授業です。授業は、目の前の人に何かを伝えることである、とも考えられます。私たちは、どの

る」とお話になりました。

そして、埼玉大学の岩川直樹教授の次の言葉を紹介して下さいました。「たとえ『未熟』でも、相手にふれ、ふれられる肌や格闘に込める学びを共に探り合っていくこと。学校は、そこを起点にしてあらゆることを問い返す、探究のつぼであっていい」

自らの鎧を脱いで子どもと対したり、研究委員会で授業づくりを考えたこと、それが高めることにつながるはずです。ぜひ、そんな研究委員会にしてほしいと思います。(須坂小・須坂支援学校)

の教科などについて、深い理解が無ければなりません。深い理解には限界がありません。より深い理解は、学び続けること、求め続けることによってしか、身につけることができます。学び続け、深い理解をし続けることは楽しいことです。その楽しさは、自分の心に火をつけることでもありません。そのため、同好会は大切な物なのです。

本年度も夏休み中、各同好会の講習・講演会・巡検等が企画されます。大勢の皆さんの参加をお待ちしています。(常盤中)

文学同好会を紹介します

文学同好会長 黒岩 瑞樹

文学同好会では、例年、「夏期講演会」と「ピブリオバトル」を行っています。「文学」というと、小説・随筆・文芸評論のイメージが強いと思います。しかし、本同好会では、国語の授業で扱う教科書教材・科学分野の本から漫画に至るまで、言語表現・絵画表現によるテキスト全般を扱っています。

昨年度の夏期講演会では、元塩尻市立図書館長の内野安彦さんをお招きし、学校図書館委員会と共同で講演会を行いました。図書館を「みんなの図書



館」としてとらえ、市民の声を聞きながら図書館を良くしていくことが大切だというお話でした。文学やその他資料を守り、文化を作っていく図書館の在り方について考えることができました。

子どもの本研究会を紹介します

子どもの本研究会会長 加藤 敦子

子どもの本研究会では、本好きの先生方が集まり、読み聞かせに効果的な本や、子どもの心を豊かにする本を紹介し合い、授業に役立つ本について研究すると共に、自身の本の世界を広げていきます。

読書会では、会員がお勧めの本を数冊ずつ持ち寄り、実際に一部を読み聞かせたり、お勧めポイントを紹介したりします。その後、心にとまった本を手にとって、どんな授業で使えそうか、どんな子の琴線に触れそう



か話題にしながらか読み浸ります。自分が選ぶ本は、個々の嗜好が

出るので、どうしても偏りがあります。しかし、多くの先生方のお勧めの本に触れることで、新たな本に出会い、以前から知っている本の新たな魅力に気づくことができます。

夏休みには、読書仲間等に活用できるパネルシアター作りや、本の世界を更に広げるために絵本美術館探訪を行っています。原画には絵本にはないよさがあり、作者の思いに触れることができます。

また、子どもの本専門店の方を講師に、講演会を行って最新の絵本や子ども向けの本の情報にも触れています。何より豊かな子どもの本の世界に癒やしをもらっています。(高山小)



本校の「総合的な学習の時間(潤身の時間)」の目標の一つに、「友だちや地域の人々と繰り返し関わり、課題の解決に向けて、主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる。」があります。

「潤身の時間」の活動に初めて取り組む三年生の中心活動が、「子どもやんしゃ」です。毎年、区長さんをはじめ、日滝地域づくり推進委員会の方が講師として子どもたちと一緒に各地を巡る学習です。

昨年度の三年生は、本郷地区を知る学習でした。本郷大塚古墳の見学では、古墳の前に「ただの小さい山だ」と思っていた「お宝が入っていたなんて知らなかった」と目を丸くして驚く子どもたちの姿がありました。満龍寺では、本堂の中に入



り、ご住職さんからお話を聴きました。本堂は歴史的に貴重な建物であるという話を聴き、特別に二人一人おみくじをひかせていただきました。

蓮生寺でも、ご住職さんから、「すべてのものに神様が宿っている。」というお話をお聴きました。

最後に十王堂と高札場の見学をしました。話の内容を聴き洩らさないようにとメモを取っている子どもたちの表情は、真剣でした。「やんしゃ」の学習は実際にその場所に行き、話を聴くことで、五感を通して学ぶことができます。

普段何気なく見ていたものの中に宝物がたくさんあることに気づける「やんしゃ」の学習は、日滝小の誇りです。(鈴木 真宏)

本校の宝 74

「歌声の響く学校」

常盤中学校

本校の宝は、合唱です。学校運営の基本方針の一つにも「歌声の響く学校づくり」があります。生徒も先生方も日々合唱に励んでいるというより、合唱を楽しんでいるという感じがあります。朝や帰りの学級活動の時間には、どの学級からも美しい合唱の歌声が聞こえてきます。学校全体が歌声であふれ、美しい合唱の歌声を聞くと、心が洗われる思いがします。この朝のひととき心地よさは、今までにない新鮮な感覚です。

本校には、合唱部と共に常盤中学校合唱団という有志が参加する会もあります。この会は「部活動への所属如何に関わらず、常盤中学校を合唱で盛り上げようという志を持った者が集まり、合唱を創り上げ、歌声のあふれる常盤中学校の象徴となる。」という目的のもと、平成二十四年度に始まりました。音楽会で、常盤中学校合唱団として合唱を披露するだけでなく、「須坂メセナ祝典合唱団」等への参加など、地域に貢献する活動もしてきました。



先輩方の長年に渡るお力でお築かれ受け継がれ、常に本校の中核活動となっている合唱は、まさに本校の宝です。これからも、この宝を大切に育んでいきたいと思えます。(新津 朋典)